

圏外のアンテナ

[武道館ライブ]の巻

「この武道館公演の興行収入と、グッズ収入のすべてを、熊本に寄付しますなっし〜！」

そうふなっしーが口にする、アリーナから2階席の最上段まで、1万2000人の観客でギッチリ埋まった館内の空気が、ぽかーんと宙に浮いた。それは純粋に、みんなが驚きで声も出ない瞬間だったろう。

ふなっしーが地上に舞い降りたのは4年前。最初は地元の船橋市からも相手にされず、全国各地のご当地キャラ・イベントに参加することさえ許されなかった。

「いつかは武道館で！」という夢を、まるで弾みのように口にしたのは、2013年。自身で作詞作曲したファースト・シングル「ふな ふな ふなっしー♪」発売時の記者会見での発言である。

そして今年、8月23日、とうとう、夢の「ふなっしー」単独ライブが実現。ここまでの道のりは、並大抵の茨（いばら）ではなかった。30分間が体力の限界だということに、イベントではみんなを喜ばせたくてムリをするから、酸欠で目の前が真っ白になるようなピンチを、何度も経験した。

静まった館内に、ふなっしーの言葉は続いた。

「自然災害の多いこの国は、昔からずっと、皆で支えあってきた……そういう民族じゃないかなっし〜？」

そ、そうだったはず…。

「ふなっしーが寄付するんじゃないなっしよ。ここに来てくれたみんなで、することなっし〜！」

ふなっしーは今までだって「南三陸ミシン工房」にグッズの製作を依頼し、「みちのく未来基金」を通じて、震災後の東北の子供たちを応援し続けてきた。

だが、今度という今度は、ワタシ、マケマシタワ…。

その後、ふなっしーは、ワイヤーロープに吊るされて、まさかのフライングで宙を飛び、館内がどよめいた。

だが、その姿は、止まらない涙で、少しゆがんで見えたのだった。

=2016年9月6日掲載=



ふなっしーライブ、開演直前の日本武道館